



1 「All Japanの学思考」

リオデジャネイロ五輪で寝不足となった夏休みでした。どの競技や選手が印象に残っていますか。私は卓球女子団体の3位決定戦とバドミントン女子ダブルスの決勝から目が離せなくなり、シーソーゲームに心拍数と血圧がずっと高い状態で観戦後にへとへとになっていました。

ロンドン五輪の悔しさから大躍進となった柔道ですが、日本選手が常に高い集中力を持ち続けられた要因を発見しました。柔道では試合中に柔道着が乱れますが、日本選手は審判の「まで」直後から柔道着を整えはじめ「はじめ」の時には美しい自然体で構えていました。この間に集中力を高め、次への心構えをつくっていたのでしょうか。日本選手はこの自然体で礼節の大切さだけでなく柔道の美しさも世界中に伝えたのではないのでしょうか。

陸上競技・女子5000m予選で、転倒した二人の選手が助け合って起き上がり励まし合いながらゴールした美談が報道で伝えられました。私が観たバドミントン女子ダブルス決勝でもフェアプレイがありました。デンマークの選手がラリー中に転倒する場面が二度ありましたが、高橋選手は二度とも転倒していない選手の方に打ち返しました。転倒した瞬間に「今だ！」とガッツポーズをした自分が恥ずかしくなりました。

2 「兎原祭の再チェック」

T F P Tと各団体による計画・準備が着々と進行しています。昨年度の兎原祭実行委員長・久保田心さんの事後コメントを憶えていますか。「(略) 実行委員会としては出来る限りの準備を整え当日を迎えました。2日間を通じて4000人を超えるお客さんにお越しいただきましたが、当日になって初めてわかる問題点もたくさん明らかになりました。(略)」

4000人を超える来場者を想定して、計画や準備物、運営方法を再検証してください。各団体では、考えられる限りの安全対策を作成し、点検とリハーサルを行ってください。素晴らしい企画であっても、事故やケガですべてが台無しとなります。

- ・ 設置物が倒壊しない固定や入場者への注意喚起
- ・ 安全でスムーズな通行を確保する入場誘導
- ・ 安全に見学や体験するための入場人数の制限
- ・ 高温や暗所など密室状態での安全対策
- ・ 非常時の退場指示と誘導

